

人間になること

「父母の精血を縁に、自らの業識に因って娑婆世界に生ず」たしか、親鸞聖人も引用されている。「私」という存在をみごとに解き明かした名言である。私たちは日頃、自分が生まれてきた由来や理由を考へることはない。むしろ、現実社会つまり娑婆では、触れないようにしている。命を生きながら命を知らない。それが娑婆の住人だ。終生、心底の深淵に気付くことはない。臨終に到るまで、右往左往して、ただ骨になるだけである。

人は生まれ出ようとすゝる因があり、たまたま父母を縁にして、この私が身をもったということ。親子と言へども、今生の縁がなければ、別々の個人を生きることになる。しかし、仏教では縁から個人の本質を見る。親子の縁を成就して初めて親は親になり、子は子になる。人と人の間が構築される。この縁の完成事業を「とむらい」と言う。

縁に気付くのは出会いではなく別れである。別れを通して、後に残った者は命を知る。今まで共に生きた命、今まで身が邪魔して気づかなかつた命をこの別れを通してはつきりと見据へることができる。残された者は、仏智をもって二つの命の関係を完成させる。これが「とむらい」だ。多くの「とむらい」を通して人は人間になれる。文明社会は「とむらい」を知らない無縁社会である。有能な個人を生産することは出来ても、人間は育たない。

本徳寺春彼岸会「案内」(20日〜22日)

煩惱に覆われた娑婆世界の真つ只中で、終生、問題とされ、目覚めてほしいと願われている仏に出会うこと…生死を越えていく私を発見することができるかもしれない。何よりも、この仏縁を慶ばれた方に親鸞聖人がおられる。本徳寺有縁の皆様方に、お彼岸会のご案内を申し上げます。お誘い合わせご参詣下さい。

今年から都合により中日を缺む3日間に限らせていただきます。彼岸供養のお経付けは随時受け付けます。

3月20日・21日・22日

午前七時 晨朝勤行・引続き法話

午前十時 門信徒勤行・引続き布教

午後一時 彼岸会勤行・引続き布教

布教 朝来・極楽寺 軌保真澄師

春彼岸後の行事予定

本坊永代経法要 4月13日・14日

廟所永代経法要 4月21日・22日

本坊蓮如忌法要 5月12日(日曜日)

麗姫会・降誕会 5月21日(火曜日)